

GAS による GMail 添付 PDF ファイル自動選別・アップロードツールの全体の流れ・事前設定・ご確認事項・注意事項

全体の流れ(下線部分が本ツールの機能部分です。)

①[自動]「GAS による GMail 添付 PDF ファイル自動選別・アップロードツール」で GoogleDrive に該当 PDF を自動アップロード(「該当 PDF ファイル一覧」というフォルダに保存されます。)

②[手動]GoogleDrive からフォルダ「該当 PDF ファイル一覧」をダウンロード・zip 解凍し、フォルダ形式で PC に保存

③[自動]「Python による PDF 自動印刷ツール」で②で保存したフォルダを選択し、自動印刷

事前設定(既に設定されている場合は飛ばして、**ご確認事項**をご覧ください。)

①シート「検索ワード一覧」の A 列に PDF ファイル選別時に必要なキーワードを 3 個以上、記載して下さい。(行数:2~101 行目, 個数:3~100 個)

②「拡張機能」→「AppScript」を開いて頂き、下の画像で示す箇所にご自身のスプレッドシートの URL をコピー&ペーストして下さい。

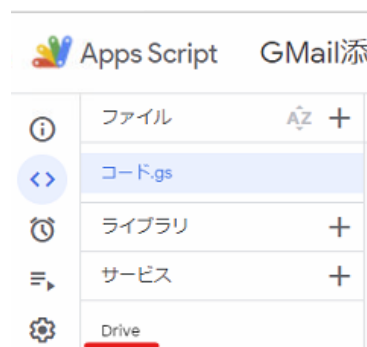
```
//検索ワード格納用
//*ここ[openByUrl()の()]内にスプレッドシートのURLを貼り付けてください
const ss=SpreadsheetApp.openByUrl('');
const WordsSheet=ss.getSheetByName('検索ワード一覧');
```

画像: URL をコピー & ペースト箇所(赤線部分の「'」に挟まれている箇所)

③まだ、ご使用中の Google アカウントで本プログラムを実行させたことが無い場合、①、②が済んだ後に、「AppScript」上で実行ボタンを押して頂き、次の参考サイト等([【GAS】Google Apps Script をアカウントに承認させる方法](#))をご参照の上、プログラムの実行を許可して下さい。

ご確認事項

①「AppScript」の「サービス」で下のように「Drive」が追加されていることをご確認下さい。追加されていない場合は次の参考サイトを([【GAS/Google スプレッドシート】Google ドライブのフォルダ内のファイル一覧とファイルリンク、最終更新日時を取得する - ソースに絡まるエスカルゴの「2 : DriveAPI ドキュメントのサービスを追加する」](#))をご参照の上、追加して下さい。尚、こちらを追加した後は再び**事前設定③**の許可が必要になる場合がございます。なので、念の為、**事前設定③**の手順でご確認下さい。



画像: 「サービス」で「Drive」が追加されている様子(赤線部分)

②「AppScript」で「時間主導型」のトリガーが設定されていることをご確認下さい。設定されていない場合は次の参考サイトを([Google Apps Script\(GAS\)](#)
[で、処理を定時実行する方法](#)の「3 定期実行させる」)をご参照の上、設定して下さい。トリガーによる定期実行の時間間隔はご自身で設定・ご変更下さい。

*デフォルトでは5分に設定しています。

注意事項

①本ツールは「添付ファイルが有り、かつ、下のメールアドレス*から送信された、かつ、スター☆が付いていないメールのみを読み込み、読み込みを終えたメールにはスター☆を付ける」仕様になっております。その為、メールでスター☆を付けられる際は本ツールの読み込み対象外になることをご考慮の上、行って頂く必要がございます。

②GoogleDrive 内のフォルダ「該当 PDF ファイル一覧」には順次、該当 PDF が追加されていくので、**全体の流れ**②が済んだ直後にフォルダ内の PDF ファイルを削除、又は、フォルダ「該当 PDF ファイル一覧」ごと削除して下さい。

(削除されたフォルダ「該当 PDF ファイル一覧」は、次の定期実行の際に新しく自動生成されるので、ご安心ください。)